

## 凍害

草地の回復は

雪印の

追播用詰合せ

種子で!!



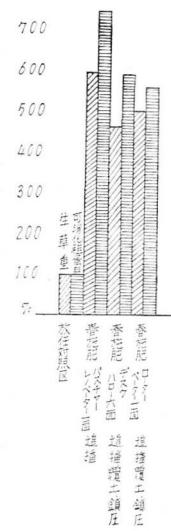
**凍害地帯の牧草地の管理と更新**  
雪の多かった北海道中央部を除いた各地では、意外に多い凍害の被害が問題になつておりますが、牧草地では収穫皆無の場合もありますので、早期対策を講じ自給飼料の確保を図る必要があります。

### 一 凍害、寒害草地の回復はどうしたらよいか

#### — 早春の追肥と追播の励行を —

早春の追肥と追播は荒廃草地（凍害、寒害草地も含めて）の更新回復の最も手軽に出来る起死回生の策と言えましょう。この方法は国外でもよく行なわれている更新方法の一のレノベーション法とも言ひべきもので、更新の手間が簡単で、引続いて急速草地が利用出来、しかも生産量を容易に高められるところに特色があります。

一般草地では追肥だけでも相当な収量増加が期待できますが、凍害、寒害の場合は必ず追播が必要で、この場合播種牧草の発芽や生育を良好にするためには地表面耕起が当然必要になりますが、ローラーべークーあるいはバスクヤー／レノベーター等の更新用農具はどこでも利用できる状態にありませんので、手持ちのデスクハロー



や方形ハローの利用でも充分効果は期待できます。

### 二 追播用としてどんな牧草がよいか

#### — 追播用詰合せ種子のご利用を —

凍害、寒害地の追播用牧草にはどんな特性が要求されるかをみますと

(1) 耐寒性の強い牧草であること。

(2) 低温でも発芽するもの。(早春播で早く生産させ草地の回復を早めるため)

(3) 初期生育早く牧草間の競合に強いもの(追播で古い残存牧草と競合して負けないもの)

(4) 早くから収量があがり、しかも永続すること(今年の収穫を予定していた牧草地であり、更に永続が望ましい)

(5) 種子代の安いこと(計画外の出費でもあるから)

等々であります。そこでこれを一種類の牧草に求めようとしても無理で、幾種類かの混播によって、この要求を充足するこことなりますが、一般的の土地では次の牧草類がその対象候補にあげられます。

まめ科 赤クロバー、クリムソンクローバー、ラデノクローバー、白クローバー

更新手段と草の生産量 (三ヵ年合計) 割合 (北農試)

(畜産部)

いね科 イタリアンライ、ペレニアルラ

イ、オーチャード、メドウフエス

ク、チモシー、トールオートグラ

ス  
弊社では研究農場でこれらの草種を利用した追播更新試験を早くから行なっておりますので、今回各地よりのご要望もあり、どこでも直ぐ利用できる追播用の混播種子を発売することに致しました。

### 探査地兼用地印追播用詰合せ種子

#### 一〇坪分 一袋二キ詰

八〇〇円送料込み

### 三 追播の方法

#### — 地表を力き起こしてなるべく早播を —

(1) 追播更新の作業順序を述べますと成るべく早春に実施を

融雪早々一日も早く、土壤凍結の激しい地帯では耕土が全部融ける迄待たず表層一五~二〇cmのとけた時(牧草の発芽最低温度は一~四度で早まきでも心配なし)

(2) 施肥と石灰の散布を

普通地では一〇坪当り尿素七~八kg、過石一五kg、熔りん一五kg、塩加七~八kg前後の普通追肥に準じた施肥と古い草地では更に炭カル一〇〇kg前後を全面に散布。

(3) 簡易耕起を行なうこと

デスクハローの場合は、ある程度角度をつけ(表土が五~八cm起きるよう)また方形ハローの場合は重石や木の根株等で重量をつけて爪のささるようにし縦横三~五回かけ、芝土の破碎と、播種床をつくります。

早春土壤水分の多い時期、しかも保水力に富んだ土地ではこの作業を省くこともあります。

放牧利用は厳禁すべきで、少なくとも草丈三〇cm以上に生育し、充分根を張つてから放牧することが必要で、出来れば一番草は刈り取り利用、二番草以降に放牧する方が適切な方法です。

(種苗部より)



追播のために施肥とデスクハローによる簡易耕起をしているところ  
(これが済んだら雪印詰合せ種子の播種を)